

※ 日本標準商品分類番号 87 3319		
KN1号輸液	200mL 袋	500mL 袋
承認番号	22000AMX00453	
薬価収載	2008年6月	
販売開始	2006年9月	1990年10月
再評価結果	1978年3月	

総合電解質輸液

KN1号輸液

(開始液)

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱上の注意の項参照

※注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

KN No.1 Injection

【組成・性状】

1. 組成

本剤は1容器中に次の成分を含有する注射液である。

成分	200mL中	500mL中
塩化ナトリウム	0.9g	2.25g
ブドウ糖	5 g	12.5 g
熱量	20kcal	50kcal

電解質濃度 mEq/L	
Na ⁺	Cl ⁻
77	77

2. 製剤の性状

本剤は無色～微黄色澄明の注射液である。

pH 約4.9 (製造直後の平均実測値)
4.0～7.5 (規格値)

浸透圧比 約1 (生理食塩液に対する比)

【効能・効果】

脱水症及び病態不明時の水分・電解質の初期補給
手術前後の水分・電解質の補給

【用法・用量】

通常成人、1回500～1000mLを点滴静注する。

投与速度は通常成人1時間あたり300～500mL、小児の場合、1時間あたり50～100mLとする。

なお、年齢、症状、体重により適宜増減する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与 (次の患者には慎重に投与すること)

- (1) 腎不全のある患者 [水分、電解質の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。]
- (2) 心不全のある患者 [循環血液量を増すことから心臓に負担をかけ、症状が悪化するおそれがある。]
- (3) 閉塞性尿路疾患により尿量が減少している患者 [水分、電解質の過負荷となり、症状が悪化するおそれがある。]
- (4) 糖尿病の患者 [ブドウ糖の組織への移行が抑制されているので、高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。]

2. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

大量・急速投与：大量を急速投与すると、脳浮腫、肺水腫、末梢の浮腫があらわれることがある (第一次再評価結果その14、1978年)。

3. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

4. 適用上の注意

- (1) 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮すること (患者の皮膚や器具消毒)。
②寒冷期には体温程度に温めて使用すること。
③開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- (2) 投与时：ゆっくり静脈内に投与すること。

【取扱い上の注意】

- (1) 注射針はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。斜めに刺すと注射針が容器頸部を貫通し、液漏れの原因となることがある。
- (2) ソフトバッグ製品は、原則として連結管を用いたタンデム方式による投与はできない。
- (3) 包装内に水滴が認められるものや内容液が着色又は混濁しているものは使用しないこと。
- (4) 容器の液目盛りはおよその目安として使用すること。

※【包装】

KN1号輸液 200mL 20袋 ソフトバッグ入り
500mL 20袋 ソフトバッグ入り